

第11回日教弘教育賞

演劇を通して郷土愛をはぐくむ成果を論文に

大沢小が最優秀賞を受賞



賞状を手に喜びの渡邊真龍校長

大沢小学校（渡邊真龍校長・児童百六十八人）が、平成十七年度第十一回日教弘教育賞（財団法人日本教育公務員弘済会主催）の学校部門で最優秀賞を受賞しました。

日教弘教育賞は、教職員の教育実践と研究意欲に対する奨励を目的に行われており、平成十七年度は「学校の実態を踏まえ、明日の教育を考える」が研究主題。同校が発表した論文は「地域の教育力を生かして育む『郷土愛』」で、長年にわたり上演している地元の海を題材にした全校表現劇「海よ光れ」について、本番までに積み重ねる体験学習を通じて、児童が郷土愛をはぐくんでいく成果をまとめました。



学習発表会で全校表現劇「海よ光れ」を演じる児童＝昨年10月＝

最終審査には、全国から県の地方審査を通過した学校部門五十一、個人部門三十一の合わせて八十二編が寄せられ、同校の論文は地域に根ざした実践研究

が高く評価されました。「海よ光れ」は昭和六十八年十月の初演以来、十八年連続二十三回の上演を数え、昨年は十月に学習発表会で披露。平成十一年にはNHKホールを会場に開かれた全国漁港大会で上演した実績があります。劇はトロール船の底引き網で海底が荒らされ、魚が捕れなくなった現在を嘆き、人間の知恵と力で海を守り育てることを訴える内容。児童は地域住民の協力を得て、カキ養殖やするめ作りなどの体験を積み、大沢地区の歴史や漁業に理解を深め、本番の演技につなげています。県内で最優秀賞を受賞したのは平成十一年度の盛岡市の北松園中に次いで二校目。表彰式は、三月二十八日に東京都の第一ホテル両国で行われました。受賞について渡邊校長は「とても驚いています。懸命に練習に励み、これまで上演を成功させてきた児童はもちろん、カキ養殖やするめ作りの体験学習に協力してくださった地域の方々のおかげです。今年、大沢小学校は創立百三十周年を迎えることともあり、受賞は今後の大きな弾みにもなります」と笑顔で話していました。

叙位

故濱村半藏さんに従五位



故濱村半藏さん

元山田小学校長で勲五等双光旭日章を受けている故濱村半藏さん（長崎・九歳）に、叙位として従五位が贈られました。

濱村さんは、昭和六年に岩手県師範学校を卒業。同年、宮古小学校の教諭となり、二十三年に豊間根中学校長に就任。河南、織笠の各中学校の校長などを歴任し、四十六年に山田小学校校長を最後に退職しました。

退職後は、中央公民館長、町芸術文化協会長、山田ユネスコ協会長などを務め、各分野でも活躍。五十三年から平成元年までは町教育委員会委員長を務め、学校教育の充実、学力向上などに尽力されました。

濱村さんは三月五日に亡くなられました。ここに生前の功績をたたえ、ご冥福をお祈り致します。